

<早春の野原三点セット>立春が過ぎマンサクは満開、ウメは七分咲き位です。野原ではオオイヌノフグリ、ホトケノザそしてヒメオドリコソウの花が目につくようになりました。

これら早春の野原三点セットに加えてイヌノフグリが咲いているところを見つけました。古来種のイヌノフグリは“オオイヌ(ヨーロッパ原産の外来種)”に圧されて少なくなっています。イヌノフグリは花数が少なく、花の



<オオイヌノフグリ>



<ホトケノザ>

色はオオイヌの目に染みるブルーに比べ薄いピンクそして大きさも“オオイヌ”の半分に満たないほどです。ある著作に「島の理論」というのがありますが、競争相手とか敵の少ない島国育ちは大陸育ちにどうも力負けするのでしょうか。



<ヒメオドリコソウ>



<イヌノフグリ>

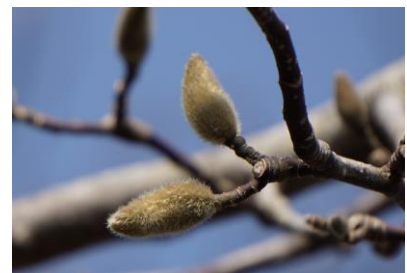
<小さな小さな春>イチョウ並木にある舗道の端はあまり人が通

らないため年中コケが生えています。ほんの 10 日ほど前までは色も冴えなかったのですが日差しを浴びて黄金色に輝き出しました。写真は高さ 1cm ほどのナガバチヂレゴケの小さな集まりです。5cm 四方ほどのものですが“春!”という感じがします。一方、カワツザクラやカンヒザクラの花芽が俄かに大きくなり色も付いてきています。コブシの綿毛に包まれた芽も一層大きくなってきました。



<ナガバチヂレゴケ>

<聞做(ききなし)>は「ホー、ホケキョウ」のように野鳥の鳴き声を人の言葉で置き換えることを言います。土地によっても時代によってもどう聞こえるか随分違うようですね。ホトトギスの鳴き声は昔話では「本尊掛けたか」などさまざま、そして私たちは「特許許可局」と覚えています。モズ(下左写真は早、No.29 にはみ)はホトトギスに「本尊掛けたか」と催促され、「吉、吉、吉」。アオジ(下右写真)の聞きなしは正に



<コブシの花芽>



って渋い(ツバメ)」など、よく思いつきますね。

今様で「消費税 1 円、ツリ、ツリ、ツリ」だそうです。それにしても「焼酎一杯ぐいー(センダイムシクイ)」とか「土食って虫食

(文と写真：松本正勝)